

昭和に生まれた愛すべきロングセラーで温故知新!

# mono

モノマガジン情報号

5-16

新製品から時代を読む

2017 NO.782

平成29年5月2日発行発売 (毎月2日・16日発行発売)  
第36巻第9号・通常782号  
昭和57年11月2日第3種郵便物認可

定価637円

www.monomagazine.com

人生、山あり、谷あり。1926年、1989年まで62年と14日間続いた昭和時代は長かった！  
本特集では、そんな昭和時代に着目し、今でも購入できる日本のロングセラー商品を取り上げる。  
どこが変わって、どこが変わらないか、風が長い製品にのみ存在する底力を感じてほしい！

総力  
特集

なんでも壊れない  
スター文具の  
ゲーム筆入は今でも健在。  
ビッグジョンのベルボトムに  
ゲタを履いていたあの頃。  
ホンダのゴールドウイングで  
タンデム決めてたっけ。

DJに憧れて、  
誰もが2台揃えた  
テクニクスSL-1200。  
家族みんなで遊んだ  
タカラトミーの人生ゲーム。  
アニキが持っていた  
懐かしのヤマハのギター。

We have a great time.

EDWIN  
MADE IN JAPAN

POCARI SWEAT

SevenStars  
Charcoal Filter



頭の中に音が響き渡る  
ソニーのウォークマンに驚き、  
ポカリスエットを飲みます。  
いつまでも変わらない  
マルマンのスケッチブックと  
キッコマンの醤油に思わずホッ。



# オーディオ

ただ懐かしいだけでは  
僕らの音楽シーンを  
世紀を超えた発明品ともいうべき、  
素晴らしき往年の余韻とともに

## 昭和42年 クリーナーにまで 宿る音に対する情熱

ナガオカオーディオ  
03-3479-8181

形容するに水不足なほど、  
この風潮の勢七といつたところか。円滑なレコード再生で考えれば、レコード用のクリーナーは、まさに名産品だ。その筆頭にあげるのが約40年近くもの間、レコードやレコード針を潤し続けるナガオカのリナーだ。昭和15年に時計用の部品製作からスタートしたナガオカは、昭和31年にダイヤモンドを先端につけたダイヤモンドレコード針を発売。昭和59年には針の生産が月産100万本に到達するまで、世界中のオーディオファンから、音のナガオカとして讃えられた。こ

の当時から、音の清さを保つために、レコード針の清掃は、オーディオファンにとって重要な作業の一つ。ナガオカのリナーは、その中でも、最も信頼されている。その理由は、針の先端を、ダイヤモンドで研磨し、その表面を、シリコンでコートしているからだ。シリコンは、針の先端を、常に潤滑に保ち、音の歪みを、最小限に抑えている。また、シリコンは、針の先端を、常に清潔に保ち、音の歪みを、最小限に抑えている。また、シリコンは、針の先端を、常に清潔に保ち、音の歪みを、最小限に抑えている。



カタログに掲載された、アクセサリー類を集合写真で魅せる（これだけあるゾのアピール）。ページは昭和の当時、よく採用されていた手法だ。



**クリアトーン558**  
レコード用クリーニングスプレー。クリーニング効果が高く、静電気の発生も防ぐ。スプレーの香りをかくとあの頃へタイムスリップする。価格1620円。



**ハイクリーン801**  
針先や音質劣化の原因となる針先の汚れを取り除く洗浄液。ハイクリーンで針先をキレイにしておけば、日々クリアな音を約束。価格756円。



**アルジャント118**  
ファン必携のレコード用クリーナー。超極細な最高級ベルベット使用で、レコード溝に詰まった小さなゴミ、埃の除去も楽々。価格1296円。

済ますことのできない、  
潤し続けてくれる、  
オーディオ界のロングセラー。  
その実力をたっぷりと再考察！

文 下川冬樹

# 昭和残響伝

## 昭和45年 初代設計時点での 圧倒的な完成度の高さ

パナソニックお客様  
相談センター  
0120-878-365



**SP-10**  
1970年発売の世界初ダイレクトドライブ方式採用ターンテーブル。優れた性能で愛好家を魅了し、そのメ리트を広く、テクニクス経営の契機に。



**SL-1200**  
1972年登場のダイレクトドライブ方式ターンテーブルの普及モデル。トーンアーム一体型の筐体はさらにコンパクト化され、使いやすさを重視の設計に。

レコードがブーム復活の今、オーディオファンにも熱視線が注がれているが、その命をなす高い回転とピンポイントな音の再現性を誇るダイレクトドライブ方式の先駆者、昭和45年発売のテクニクス「SP-10」だ。その後、昭和47年に普及モデル「SL-1200」が登場し、'08年12月には累計350万台以上の販売を記録。レコード文化を育ててきたが、突如、MK6で音質は一旦途絶え、昨年6月の限定発売で予約開始30分で完売した「SL-1200GR」まで復活を待たねばならなかった。その後、ファンの熱意に応じる形で限定モデルとほぼ同仕様のレキユーラーモデル「SL-1200GR」がリリース、この5月には新たなスタンダードモデルとして「SL-1200GR」がデビューと弾みがつく。レコードを嗜みなおすなら今をおいてほかにない。



**テクニクスSL-1200GR**  
SL-1200Gを継承したスタンダードモデル。回転制御のロジックや回路は同じまま、ダイレクトドライブモーターを合理化し、シングルローター仕様にするなどでコストダウンを実現。価格15万9840円。5月19日発売。



**ソニー/NW-WM1Z**  
新規格のヘッドホンバランス端子を搭載し、ソニーの技術ノウハウを結集させた史上最高品質の「ウォークマン」。モバイル音楽を圧倒的な音かへと導く。オープン価格（実際32万4000円前後）。

## 昭和54年 音楽をより自由に 解放してくれた時代の寵児

ソニーマーケティング  
買い物相談窓口  
0120-777-886



初代ウォークマンの見た目が昭和54年、ソニーらしいフラッシュスタイルを一新させる革新的なデザインは、今も同社に受け継がれる。



初代ウォークマンの製品発表会でされたデモンストレーション。短パンTシャツに腰バンド装着のスケボースタイルが懐かしい。

**初代ウォークマン TPS-L2**  
角ばったフォルムに、肉厚ボディが、今あらためて見ると野暮ったくも懐かしくも見えるが、これが当時の最先端だった。



昭和生まれのモノマガ世代にとっては説明不要だろう。昭和54年にソニーが生み出したこの衝撃は今も忘れられない。ウォークマン、それまでスピーカーの音が流れてくる音を聴くしか術のなかった音楽を、音質、外に持ち出して、お気に入りの音楽を自由に楽しむことができた。音楽を自由に解放した。



「ウォークマン」の歴史は、音楽を自由に楽しむための道具として、常に進化を続けてきた。その中でも、初代ウォークマンの登場は、音楽の歴史に大きな転機をもたらした。それは、音楽を自由に楽しむための道具として、常に進化を続けてきた。その中でも、初代ウォークマンの登場は、音楽の歴史に大きな転機をもたらした。